

関東甲信越支部，認定医教育研修会 「命の入り口，心の出口」報告

関東甲信越支部



平成23年9月4日（日），東京・新宿区の日本青年館中ホールにおいて，関東甲信越支部主催の認定医教育研修会が河原英雄先生，増田純一先生を講師にお招きして「命の入り口，心の出口」というテーマで行われました。

前夜に台風12号が中部地方に上陸し，当日の東京は曇り空で時々雨が降るあいにくの天候でしたが，会場内は両先生の豊かな臨床経験と臨床記録に基づいた情熱あふれる素晴らしい講演内容でした。170名余の受講者は食い入るように聴き入り，感動を懐に自分の行く末をしっかりと受け止めた一日となりました。

正午の定刻より，俵木 勉常任理事の座長のもと講演が開始されました。まず，上濱 正先生による「顎口腔系はおもしろい」「新たにスタートする日本顎咬合学会認定歯科衛生士・歯科技工士の制度について」の講演からスタートしました。

次いで，増田純一先生「美しい顔で豊かな人生を送るために—生涯にわたる“歯”の健康づくり—」，そして河原英雄先生「噛む」，のタイトルで講演が行われました。増田先生と河原先生の沢山の資料を使った分かりやすい説明と圧巻の動画によるプレゼンテーションは，受講者の興味を引きつけ熱心にメモを取る姿が多く見られました。とりわけ動画に身を乗り出して熱心に見入る姿が印象的でした。また，賛助会員により講演の中で登場する商品のサンプルも提供され，たいへん有意義な講演会となりました。

今後，各支部で同講演が行われる予定です。是非この機会にお聞きすることをお勧めしたいと思います。

なお、講演に先立ち関東甲信越支部理事会が開催され、来年度より発足する認定歯科衛生士および認定歯科技工士制度への対策等についての協議がありました。

最後に、当日受講された先生から感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

* * * * *

「命の入り口、心の出口」認定医研修会に参加して

山内彰人

去る、平成 23 年 9 月 4 日日本青年館において、講師に河原英雄先生、増田純一先生をお迎えし「命の入り口、心の出口」をテーマに認定医教育研修会が行われました。以前、河原英雄先生の著書である『親父の小言に学ぶ 歯科開業学』と出会う機会があったことで、実際の講演を拝聴させて頂けるこの日を心待ちにしていました。

日本顎咬合学会は口腔内の疾患に留まらず、顎口腔系全体にアプローチを包含する学会です。しかし私たちは D. D. S (Doctor Of Dental Surgery) として、日々の臨床を歯周治療、修復治療、根管治療、補綴治療の柱を主体に忙殺されています。そしてその精密性、機能性、審美性を追求しています。

もちろんこれらを追求するのは当然の事ですが、昨今の歯科業界外では口腔分野に留まらず、「口腔と全身の関わり」「噛むことと健康」の相乗作用に強い関心を寄せています。口腔内の領域にのみもっぱら関心がある歯科業界との間にギャップが生じているのではないのでしょうか。今回の教育研修会の内容は、この問題に関して、私のギャップを少しずつ埋める事ができたと感謝しています。

自分自身が歯科医師となり 6 年が経過しますが、今までを振り返ってみると、小児を治療する時に、増田純一先生のご高話のように将来を見据えた治療を本当に行っていたのだろうか？ 河原英雄先生のご高話のように、義歯を通して全身の機能回復を行っていたのだろうか？ という問いが脳裏をよぎります。答えは言わずもがなです。

両先生のおっしゃっている事は、全身から歯科を眺めることです。先生方の症例を通して、私たちはもっと患者様による咬合から口腔領域外の訴えに寄り添う心の視野が必要ではないかと強く感じました。

口腔内領域を治す人から口腔外領域全体を治す人、乳幼児から高齢者まで、一人ひとりのライフステージに合った、本当の意味での治療に携わる医療人としての知識と技術そして見識を持ったとき、患者様に喜ばれる口腔科医師として生まれ変わるのではないかと。私は今回の講演を聴いて、このように思いました。